

Olympic
Movement

<平成28年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

千葉県茂原市立茂原中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年12月8日 (木)
- 場 所 : 茂原市立茂原中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (37名)、3組 (38名)
- オリンピック : 湯本 進一 先生 (レスリング)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・湯本先生から自己紹介をした後、オリンピックバリューの意味を簡単に説明。バリューと日常生活の関係を考えながら授業を進めていくと目的を確認し、準備体操とレスリングの動きを取り入れたウォーミングアップを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれてしっぽり鬼を全3回実施。3回目は湯本先生も尻尾をつけて参加した。



4. まとめ



・運動の時間の中にも一生懸命やる(エクセレンス)、チームで協力する(フレンドシップ)要素が入っていた。また、オリンピックにとっても工夫することは大切であり、それによって結果につなげることが出来る。次の座学の時間でも引き続きオリンピックバリューについて考えていくので、運動の時間のことを考えながら教室に戻るよう伝え、授業を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・ 湯本先生がロンドン大会に出場するまで、そして出場して経験したことを通して感じたオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- ・ 自分自身が感じたオリンピックバリューについて考える。
- ・ 何事にも諦めない心で取り組む（エクセレンス）、友人と切磋琢磨する（フレンドシップ）、励ましてくれた友人に対する感謝（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ 目標、目的を達成するためには自分自身に勝たなければいけないので、どんなことも勇気を持ち、支えてくれている人への感謝を忘れず、今日学んだことを活かして努力してほしい。
- ・ 東京2020大会では千葉県でレスリング、フェンシング、テコンドーが開催されることに触れ、湯本先生はコーチとして会場にいると思うので、何らかの形でオリンピックに携わってくれたみんなと、会場でまた会えることを楽しみにしていると伝え、授業を終了。



- 期 日 : 平成28年12月9日 (金)
- 場 所 : 茂原市立茂原中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (36名)、4組 (37名)
- オリンピアン : 澤野 大地 先生 (陸上競技・棒高跳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・ 澤野先生から自己紹介。今日は2時間を通してオリンピックを身近に感じてほしいと授業の目的を確認した後、オリンピックバリューのパネルを示し、運動を通して、フレンドシップやリスペクトを感じながら、少しでも速く走れるコツを知ってもらいたいと伝え、準備体操に移る。

3. 主運動



・ 走る時の姿勢(軸)を確認した後、ミニハードルを用いたジャンプ系のドリルを実施。
 ・ダッシュの練習をした後、6班対抗でリレーを実施。

4. まとめ



・運動の授業では、速く走るためのコツを学んできたが、軸を意識することを含め頭で考えてそれをそのまま身体に伝えること、考えた通りに体を動かせることの重要性を知ってほしかった。次の座学の時間ではさらにオリンピックについて学ぼうと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・ 澤野先生が出場したリオデジャネイロ大会の映像を見せながら、競技や大会当時の様子を説明。
- ・ 競技を始めたきっかけからオリンピックに出場するまでの競技人生の中で感じた、澤野先生にとってのオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- ・ 自分の夢や目標を実現するために、どのようにオリンピックバリューを活かせるか考える。
- ・ 技術を高める（エクセレンス）、みんなに好かれる、コミュニケーションを大切にする（フレンドシップ）、感謝の心を忘れない（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ 自分が生まれた国(日本)で、生きていうちにオリンピックが開催されるということはとても幸せなことであり、千葉県は開催地にもなっている。澤野先生は2020年には40歳になっているが、選手としての出場を目指している。今日学んだオリンピックバリューの考え方は、みんなの生活をより豊かにすることができるので、夢や目標に向かってがんばってほしいと伝え、授業を終了。



■ 集合写真

2年1組



2年3組



■ 集 合 写 真

2年2組



2年4組





■ 記念品贈呈

■ 2年1組



■ 2年2組



■ 2年3組



■ 2年4組



■ 証明書贈呈

